

第11号

会報 めいおんの会

発行 平成26年12月15日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百花草 薫

耳に残るは子どもの歌声

名古屋音楽大学音楽学部長 松下 雅人

日頃より、名古屋音楽大学の発展にご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。また会員の皆様の意欲的な教育活動に心より敬意を表します。

わたしは永らくオペラの舞台を中心に演奏活動をしてきました。ドイツの歌劇場専属歌手を務め、その間に世紀の歌姫といわれるソプラノ歌手グルベローヴァとの共演はまさしく、わたしのキャリアの頂点として大きな財産となっています。声で伝える芸術、声楽を専門とし空間を震えさせる人間の声の素晴らしさを肌で感じ、十二分に味わってきたといえます。一方、合唱曲にも記憶に深く刻まれた一曲があります。

臼井 真(うすい まこと) 作詞・作曲『しあわせ運べるように』 神戸市の小学校教諭 臼井真先生によって作詞・作曲されました。阪神淡路大震災で自らも被災し、生まれ住んだ神戸の街の荒れ果てた姿を目にし、絶望感のなかこの曲が生まれました。

震災の翌年1996年1月17日、神戸市による震災一周忌追悼式典が執り行われました。当時合唱に深くかかわるきっかけとなった神戸市混声合唱団の一員として、式典で追悼演奏をする運びとなりました。感情を堪えながらのわたしたちの演奏に続いて、神戸市の小学生によるこの曲の歌声が会場に溢れました。指揮は臼井真先生。深淵のような深い悲しみの会場の空気がすうーっと解けていくようでした。健気に歌う子どもの姿を映し出す感動的な合唱曲でした。人に幸せをもたらす声、互いを生かしあい調和する音楽。胸が熱くなったのを鮮明に覚えています。

その後『しあわせ運べるように』は想像をはるかに超える反響をよび、メディアでも幾度もとりあげられ、東日本大震災復興はじめ、世界8か国語に訳され今日まで歌い継がれています。公式サイトもたちあがり、作曲者臼井真先生のこの曲に対する想いに触れることができます。胸にストーンと落ちる言葉がいくつもあります。それをたぐっていくと合唱指導の根幹が見えてくるような気がします。わたしの手元にはその時の色褪せたコピーの楽譜があります。この楽譜を眺めながら、「目に見えないものの美しさがわかる子どもに育ててほしい」という臼井先生の言葉が響いてきます。

平成26年度 役員・参与・顧問 ～よろしく願います～

会長	百花草 薫 (名古屋・東丘小トワイライト)	会計監査	八巻 景子 (名古屋・千早小)
副会長	川合 恒之 (名古屋・守山西中)	参与	高橋 肇 (名音大・学長)
庶務	藤松 真人 (名古屋・名塚中)	同	松下 雅人 (名音大・音楽学部長)
同	塚寄 崇史 (名古屋・若葉中)	顧問	小泉 孝 (名音大・教職指導室)
会計	宇佐美ほたか (名古屋・東陵中)	同	浅田 邦穂 (名音大・前教職指導室)

♪♪平成27年度 総会・研修会・懇親会のご案内♪♪

【期日】8月23日(日) 午前：総会・研修会、午後：懇親会 【会場】名古屋音楽大学

【内容】「鍵盤ハーモニカ」の楽しさと指導のノウハウ(演奏と実技)【講師】名音大客員教授 松田 昌先生

「鍵ハモ」のプロ奏者である松田 昌先生をお迎えします。卒業生の教員の皆さんに、「授業に役立つ内容を熱い思いで語りたい」と話しておられました。滅多にできない研修会です。ぜひご参加ください。

総会・研修会・懇親会

8月31日（日）名古屋音楽大学 博聞館D101教室・学園食堂

総会では、会則に従い、会長の選出・役員の方任を行いました。昨年度の事業報告、決算報告並びに本年度の事業計画案、予算案が承認されました。

研修会は、「先生！すごい」～聴いて 触れて 邦楽の魅力～と題して、講師に名古屋音楽大学非常勤講師 岡崎美奈江先生と尺八演奏家 加藤条山先生をお迎えして行いました。前半はまず、岡崎先生の演奏で八橋検校作曲の箏曲「みだれ」を。続いて加藤先生の演奏で、山本邦山作曲の尺八曲「甲乙」を。最後は、宮城道雄作曲の「春の海」をお二人で演奏していただきました。高度な技術を目の前で見ることができ、邦楽の奥深さを堪能することができました。伝統を守りながらも、さらに表現を深めていこうというお二人の強い思いも感じることができ、たくさんの刺激を得ることができた素晴らしい演奏でした。



後半は、お二人の先生にそれぞれ、尺八と箏を教えていただくことができました。まず加藤先生から、当日尺八を持参した7名の先生方が、音の出し方を学びました。尺八は音を出すだけでも大変な楽器ですが、的確な指示とユーモアにあふれたやさしい指導で、全員が音を出すことができました。続いて岡崎先生から箏を教えていただきました。まず「さくら」の合奏です。いろいろな奏法も効果的に取り入れられた二重奏で、少し苦労する場面もありましたが、さすがにみなさんコツをつかむのが早く、素敵な邦楽のアンサンブルが完成しました。もう一曲は「六段の調」です。中学校の鑑賞の授業で取り上げる曲で、とてもすぐに弾けるような曲ではありません。しかし、先生から、楽譜の読み方、代表的な奏法の説明、そして初段の演奏へと、丁寧に教えていただき、すぐにでも授業に生かしてみようと意欲を高めることができました。また、参加者全員に楽器がいきわたるように、名音大の学生の方や卒業生の方に前日からお手伝いをしていただきました。本当にありがとうございました。



懇親会は、今年度も学園食堂で行い、講師をしていただいた岡崎先生と、学長の高橋 肇先生、学部長の松下 雅人先生、前教職指導室の浅田 邦穂先生にもご参加いただきました。今年度も東海3県からの参加があり、和気あいあいとした雰囲気の中、講師の岡崎先生とも学校教育の中での邦楽指導の課題について、本音で意見交換をすることができました。また、恒例となった近況報告の中で、教員としての思いに共感し、抱えている悩みを共に考えることができました。ベテランの先生からの意見やアドバイスも聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回参加できなかった方も、この次はぜひ参加をしてみてください。



【編集後記】

◆合唱曲『しあわせ運べるように』みなさんもぜひアクセスしてみてください。「合唱指導とは・・・」改めて考えさせられます。◆岡崎先生をお招きして出前授業をしてみませんか。ご希望の方は事務局までご連絡ください。(ゆ)

